



河内長野市【大阪府】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年12月 ■人口：106,713人 ■面積：110km²
■担当課：河内長野市教育委員会ふるさと文化財課（平成30年3月現在）



歴史文化遺産を将来にわたりの確に保存・活用していく上で「郷土に対する関心と愛着心を喚起」し、「多様な主体が参加できる仕組みを構築」しながら継承に努める。併せて「新たな価値付けを行い地域の魅力を向上」させることを基本方針とし、「中世一山寺院とこれに関する有形・無形の歴史文化遺産群」など5つの関連遺産群を定め、9つの歴史文化遺産保存活用地区を設定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

中世一山寺院、中世城郭、高野街道、
里山集落、近世・近代の生業と産業

課題

- ・歴史文化遺産の保存継承を担う人材の確保
- ・未指定文化財の評価と保存と活用
- ・防災と文化遺産保護の両立
- ・歴史的景観を維持している生業や産業の低迷

保存活用方針

- ・歴史文化遺産の相互関連性を活かす
- ・郷土に対する関心と愛着心の喚起
- ・多様な主体が参加できる仕組み作り

保存活用のための取り組み

より地域に密着した小中学校での郷土歴史学習の推進

市内小中学校で行っている郷土歴史学習に、歴史文化基本構想で設定した関連遺産群や歴史文化遺産保存活用地区の内容を取り入れ、より校区に密着し、現存する歴史文化遺産をコンテンツとした授業を実施する。もって児童、生徒の地域への愛着と誇りを育てる。



歴史文化遺産、伝統文化の価値の情報発信

歴史文化基本構想の策定によって明確化した歴史文化遺産の群としての価値、面としての価値を市民と共有し、歴史文化遺産の保存・活用や地域課題の解決にも役立てる。また、市外へも積極的に情報発信し、交流人口を拡大させる。



開発団地と旧村による新しいふるさとの枠組みの創出

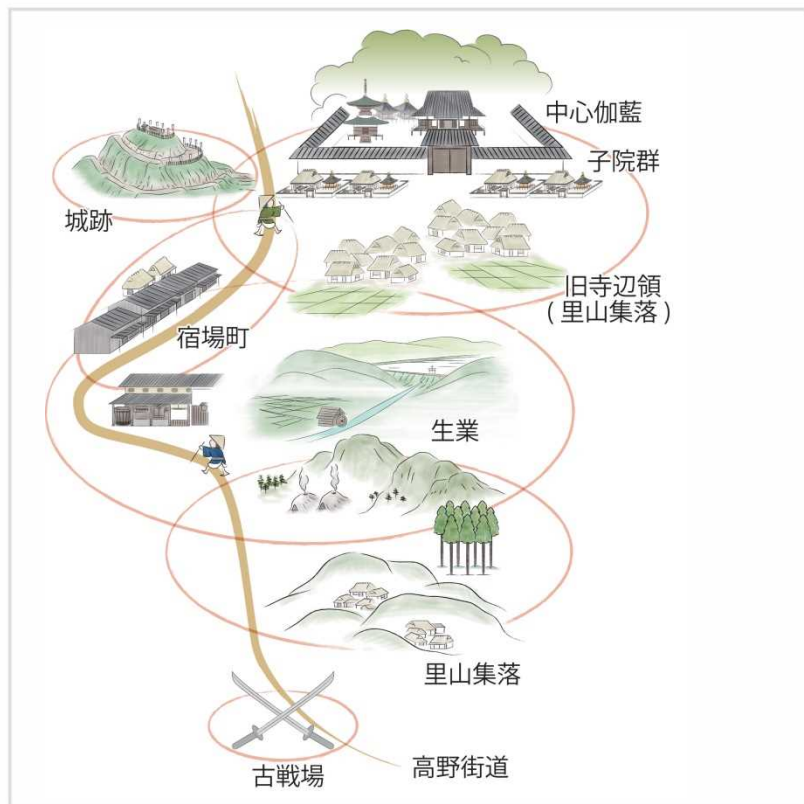
これまで、地域の伝統文化の継承を担ってきた旧村と多くのマンパワーがあふれる開発団地によって新しい「ふるさと」の枠組みを創出し、ともに、歴史文化遺産の保存と活用を進める。



歴史文化遺産保存継承団体の支援

歴史文化遺産を保存・継承している団体へ資金面、人材確保、専門知識等の様々な側面からの支援を行う。

関連文化財群



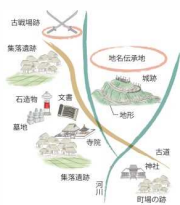
河内長野市域には、中世にあって大きな力を持ち、地域を統治した寺院があり、これらの寺院によって建造物、彫刻、文書の多種多様な歴史文化遺産が現代につたわっている。構想ではこれらを「中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群」として設定した。この他にも中世城郭、街道、里山集落、生業・産業に着目した関連遺産群を4項目設定した。

ストーリー

- ① 中世一山寺院に関連する歴史文化遺産群
- ② 中世城郭・古戦場跡に関する歴史文化遺産群
- ③ 高野街道と宿場町に関する歴史文化遺産群
- ④ 里山集落に関する歴史文化遺産群
- ⑤ 近世・近代の生業・産業に関する歴史文化遺産群

策定後の成果（見込まれる効果）

① **歴史文化遺産の価値の共有化**
 様々なジャンルの文化財を歴史的背景を基に繋げ、より分かりやすく、かつ地域にとって親しみやすい形で情報発信できるようになった。これによって、市域の歴史・文化の特徴が何であるのか、どこに強みがあるのかについて、多くの市民と価値を共有できるようになった。



② **地域を担う人材の育成**
 関連遺産群や文化財保存活用地区のコンテンツを活かした小中学校での授業、あるいは市民を対象とした講座やイベントの実施によって、市民のふるさとへの愛着と関心が醸成されている。今後、ふるさとに魅力と誇りを感じ、地域貢献できる人材が育っていくことが期待される。



③ **観光資源として新しい価値の創出**
 市内に数多く存在する様々なジャンルの歴史文化遺産を群として捉えることで、新しい価値が生まれ、より魅力的な情報発信が可能になった。今後は、歴史文化遺産の面としての、群としての活用を進め、滞在型の観光につなげていくことを目指す。

